

Title	『デジタル放送波での情報配信の実現へ向けて』：生活者の情報摂取量の増加のために
Sub Title	"The effort toward the realization distribute information by broadcasting" : for making more opportunity to increase in the peoples' intake of daily information
Author	鎌田, 慎也(Kamata, Shinya) 中村, 伊知哉(Nakamura, Ichiya)
Publisher	慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科
Publication year	2010
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	<p>本論文は、デジタル放送での情報配信実現に向けた活動のアクションリサーチ型論文である。2011年7月のデジタル放送化に伴って、空いた放送波の帯域を利活用する事で、生活者の情報摂取量の増加を目的とした、既存の放送サービスとは違った新しい情報配信を目指している。具体的には、IP（インターネットプロトコル）を放送でもコンテンツデリバリープロトコルとして使うことで、放送波でもあらゆる情報コンテンツを、デジタルサイネージを含めたマルチデバイス向けの配信モデルである。</p> <p>そこで実現に向けて、プラットフォームレイヤーのAMIO、放送波帯域レイヤーのIPDC、情報統合環境のデジタルサイネージという3つのカテゴリーに分けて、それぞれプロジェクトを実践した。</p> <p>既に一部を切り取ったサービスや試みは存在するが、放送波の情報配信を包括的に取り組んでいる事例は少なく、アカデミックなアプローチは国内外でも事例がない。</p> <p>本研究がデジタル放送を利活用した情報配信の実現化や、生活者の情報摂取量の増加に関して、少しでも貢献できることができれば、研究者冥利に尽きる次第である。</p>
Notes	修士学位論文. 2010年度メディアデザイン学 第79号
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40001001-00002010-0079

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2010年度

修士論文

『デジタル放送波での情報配信の実現へ向けて』

～生活者の情報摂取量の増加のために～

慶應義塾大学大学院

メディアデザイン研究科

鎌田慎也

本論文は慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科に
修士(メディアデザイン学) 授与の要件として提出した修士論文である。

鎌田 慎也

指導教員：

中村 伊知哉（主指導教員）

古川 享（副指導教員）

審査委員：

中村 伊知哉教授（主査）

古川 享教授（副査）

稲見 昌彦教授（副査）

修士論文2010 年度（平成22 年度）

『デジタル放送波での情報配信の実現へ向けて』

～生活者の情報摂取量の増加のために～

本論文は、デジタル放送での情報配信実現に向けた活動のアクションリサーチ型論文である。

2011 年 7 月のデジタル放送化に伴って、空いた放送波の帯域を利活用する事で、生活者の情報摂取量の増加を目的とした、既存の放送サービスとは違った新しい情報配信を目指している。

具体的には、IP（インターネットプロトコル）を放送でもコンテンツデリバリープロトコルとして使うことで、放送波でもあらゆる情報コンテンツを、デジタルサイネージを含めたマルチデバイス向けの配信モデルである。

そこで実現に向けて、プラットフォームレイヤーの AMIO、放送波帯域レイヤーの IPDC、情報統合環境のデジタルサイネージという 3 つのカテゴリーに分けて、それぞれプロジェクトを実践した。

既に一部を切り取ったサービスや試みは存在するが、放送波の情報配信を包括的に取り組んでいる事例は少なく、アカデミックなアプローチは国内外でも事例がない。

本研究がデジタル放送を利活用した情報配信の実現化や、生活者の情報摂取量の増加に関して、少しでも貢献できることができれば、研究者冥利に尽きる次第である。

キーワード

デジタル放送波（放送波）、デジタルサイネージ、AMIO、IPDC、情報摂取量

慶應義塾大学大学院 メディアデザイン研究科
鎌田慎也

Abstract of Master's Thesis Academic Year 2010

“ The Effort Toward the Realization Distribute Information by Broadcasting ”

- For Making More Opportunity to Increase in the Peoples' Intake of Daily Information -

This thesis was written by the type of the action research, it is depend on some real projects of Distribute Information by Broadcasting.

The writer is trying to make a new type delivery model come true by using unused space in broadcast wave.

The purpose is making more opportunity to increase in the peoples' intake of daily information.

It is delivery model what delivers a lot of contents for multi devices include digital signage, especially by using IP for broadcast wave.

I have conducted three projects AMIO project as a layer of platform, IPDC project as a layer of broadcasting and Digital Signage.

There are some partial services and approaches bud there is not comprehensive experimentation.

And there is no academic approach in the country and overseas.

I hope to this thesis can make a contribution to realize the Distribute Information by Broadcasting.

Key Word

Digital broadcasting, Digital Signage, AMIO, IPDC, the people's intake of daily information

Keio University Graduate school of Media Design
Shinya Kamata